

地下水の動きを研究する 中屋眞司さんと語る

雨や雪が大地に降り注ぎ、地中に浸透して流れ下る地下水。目に見えづらい地面の下の水の動きを「見える化」しようと試みているのが、信州大学工学部特任教授・名誉教授の中屋眞司さん(69)だ。地下水は地表を流れる川とは違い、ゆつくりと移動していく。山で涵養し、里で湧き出るまでに数十年かかることも珍しくない。湧水は貴重な水源。だからこそ地下水に意識を向けたい。地下水を汚さないことは負の遺産を将来世代に残さないことでもある。

地下水の動きは、採水した中に含まれているトレーサーと呼ばれる化学物質を使って追跡、可視化する。例えば、クロロフルオロカーボン類(フロンガスの一種)や六フッ化硫黄といった人工的に製造されたガスは大気中にあふれ出し、年々増加している。その濃度を測定することで地下水の年

長野環境人士

自然に優しく、暮らしを楽ししく

小林光さん対談企画

地下水の動きを「見える化」し、将来にわたる安心安全な水資源の確保に向けた研究を進める中屋眞司さん 11月3日14日、安曇野市



齢が分かってくる。年齢や動きが分かると地下の環境が見えてくる。

地下水の研究を国内外で続けている中屋さんは、同時に地下水の汚染と貧困の問題

にするためには、今の世代が山や水を大切にしようという意識を持つことが大切になる。

(野村知秀)

11月9面に対談

を直視せざるを得ないことも。貧富の差が格段に大きい途上国で、貧困層は危険だと分かっているにもかかわらず、危険な湧水を飲まざるを得ない現実がある。

それは時間軸でも同じかもしれない。将来の世代が水で困らないよう